

引率した役場職員の声

初回の事前研修では、全員が緊張した様子で少し心配になりましたが、研修の中でお互いのことを少しずつ知り、笑顔が増えていきました。

最終的には「真剣に学ぶ」「楽しむところは楽しむ」というメリハリを自分たちで自然とつけられる素晴らしい派遣団になったのではないかと思います。

事後研修では「広島で学んできたことを町民の皆さんや友だちに伝えるんだ」という気持ちで伝えるプレゼンテーションを作ることができました。派遣で学んだことを大切に、平和な社会の作り手として、様々なフィールドで活躍することを期待しています！

引率者：教育委員会事務局 松岡 亮、石丸 学

派遣団の想い、伝えたいこと



日本人として、原子爆弾投下の日や終戦の日には特に、戦争で亡くなった全ての方を想い、過ごすことが大切だと思います。

今こうして幸せに暮らせることができてるのは、先の大戦で命を懸けて日本を守った方々がいたからだということを忘れず、感謝をして、日々を過ごしてほしいと思います。

山崎 礼愛



「がんばって生き抜いた人たち」、「平和を守ろうとする人たち」がいるから今の暮らしがあります。今の生活は当たり前ではなく、いつでも壊れてしまう危険性があります。戦争は私達から離れた出来事ではありません。大切に繋いできた命を、今の人が粗末にしてはならないと思います。家族、友だち、命を大切にしてください。いつかみんなが分かり合える、そんな、平和な日が来るとわたしは信じます。

村 陽杜



「自分の命も、友達の名も大切にすること」

これは被爆体験談で、佐伯さんに伝えてほしいと言われたことです。

「平和」とは、人同士が仲良く、信頼し合えることだと思います。そのためには相手の目線で考え、相手を理解することが大事だと思います。このことを皆に伝え、意識していきたいです。

上岡 永昇



早来学園になって、たくさんの仲間と一緒にクラスになりました。クラスの中で楽しいこともあれば、意見がぶつかって自分勝手になることもあります。でもその時に、少しでも相手を思いやる気持ちがあったら喧嘩はなくなると思います。

「一人ひとりが思いやりを持って周りとは接する」これが平和へと繋がるのではないかなと思います。

加藤 春紀



被爆体験談で佐伯さんのお話を聞いて、「自分の命、友達の名を大切に、相手の気持ちを考える」ことを全ての人が常に頭に入れて生活すれば、戦争と核兵器をこの世界から無くすることができるんじゃないかと思いました。

僕にとって「平和」とは、誰もが自由に笑ってられる世界のことです。

江口 知夫